

カナロア、事件簿…
夏の怪・三つのロスト事件？！

こんにちは、井の中の蛙？ イエイエ、東京湾の宴会艇カナロア号です…進水から二年数か月、ついに相模湾オープンレースに初見参です。参加した仲間は、T坂さん(メントリ)、I筒さん(バウマン)、K太(ピット&ジブトリ)そして舵引きは、怪しげな素人オーナー、Y本の4名で参戦。

結果は、涙あり、笑いあり、そして望外の喜び有りの充実したレース参加と成りました。一言で言うと…三つのロスト事件と言う感じでしょうか？

以下は、その事件簿？…ドタバタ顛末記、豪華三部構成です。

第一のロスト(前夜祭…仲間行方不明？)

酒と食に煩い、いや、意地汚い(笑)、拙艇メンバーは、勿論、ホストクラブ主催の前夜祭から飛ばします。スタートの位置取り(テーブル確保)は、プール前の上一列目をゲット、ブロー(食材)を丁寧に拾いつつ、いや厚かましく分捕りつつ、スイスイとゴール(鱈腹&泥酔?)を目指します。ビール、サラダ、海鮮BBQと次々にマークを回るにつれ、言動が怪しくなる各人、そして、いつの間にか、一名のクルーが席から消えました…？

トイレだろ？ いやいや、美人を見つけて追走中だと…等と与太を言いつつ、小一時間を過ぎても、帰って来ません！ MIA【ミッシング、インザ、アクション】⇔戦闘行為中の行方不明？

本場のレース参加に怖気ついて、敵前逃亡か？ 成らば銃殺刑？…流石に小一時間を過ぎた頃、不安も高まります。とは言え…第三管区もBANも、宴会中の落水者(泥酔者?)は搜索してくれません(笑)。そこで、無理を承知で、多忙なマリーナ関係者に搜索依頼をお願いしました。探す事30分程度、なんと本人は、プールサイドのデッキチェアで、悠々と爆睡していました。(大笑)

マリーナスタッフから、突然肩を叩かれXXさんですか？と確認の後、無事保護の元に…本人曰く、(職務質問後、ただちに確保)…の様な気分であったと、大いに、ぼやいて居ました。

まずは無事身柄確保、メダタシ、メダタシ…？明日は四名で参戦だ！
マリーナスタッフ、そしてS根師匠、ご心配をお掛け致しました。

第二のロスト(誰か教えて！マークって、どこに有るの?)

第一マーク編



翌日は、いよいよレース当日、田舎者・カナロア号にとって初めての檣舞台、約70艇がスタート海面を流す光景は圧巻です。コースはシーボニア沖のスタートラインから、北北西・秋谷沖のブイまで、行って来いのソーセージコース、南の風を受け、変則的にフリー(流し込み)スタートです。スタート前、ラインの見通しを取って、流している

と、サイド1氏の赤鰭号が接近、『アウターブイの位置をGPSに落とせ！』…との指示を頂きました。仰せの通りでは有るのですが、その時、舵引き以外のメンバーは、ハンディーGPSの操作が判りません。大先生の勢いに負け、『了解です！』…等と、空返事(失礼！)をするも、それが結果として大きな失敗に繋がるとは…この時、誰も思わなかったのです。



いよいよスタート、アウターマーク側から、南の風をアビームに受け、アプローチ。タイミングも悪く無く、地元艇、風太郎の下側(ライン側)からクリアスタート、流し込みスタート故、安全第一でラインを切るまで約10秒程度掛ったのは御愛嬌？大きな遅れも無く第一列でスタートを切れました。スタート後、すぐさまポートタックにジャイブ、そしてスピン

展開となりました。

若干、展開に、もたついた感も有りますが、如何せん今回のポジションは、メンバー数名欠席による、俄か構成、大きなトラブルなく直ちに順調なスピンランに入ります。艇速は約5ノット前後、順調です。目指すは北北西の第一マーク、一番有力なPタイム号は、私たちの遥か右手前方、本部艇側から、岸寄りを北北西に快走中。私たちは地元の有力艇フレイザーの後ろを行儀良く、ついて行きました。さしずめ、カルガモ親子見たいな感じ？離れたらだめよ～(笑)。でも、少しずつ、その差は広がります、やはり黒いセールには勝てないか？いや、こっちはセールはホワイトでも、艇長は腹黒だぞ？等とブツブツ言いつつ、必死の追走です。

ざっと、海面をみるとシーボニアCクラスでは4位前後の感じ、スタートで競った風太郎は、かなり後方に下がる、悪くないぞ、集中だ！

そうこうする内に、艇長会議で説明を受けた、秋谷沖第一マーク付近に到着(こちらは殊勝にもGPSに入力済み)、そろそろマークが見えてくる筈…??ナノに、何も見えない！先行するPタイム号・フレイザー号、共にそのまま北上を続けます。え～第一マークは何処にあるの？ロストですね完全に…(笑)。

更に北上を続ける内に、ついに先行F号がジャイブを入れ、針路を東(右)に変えました。おー、キット彼らはマークを視認した筈！後に続け、とジャイブの用意をすると、何故かF号は、再びバウを北に向け迷走状態??に、一体どうした事かと、そのまま再度こちらも北上を続けました。【F号、謎のWジャイブ事件…詳しくはK藤さんにお伺い下さい。】

そして、その後数分経過した頃、F号が完全に東に転針、ジャイブを行います。今度こそ、マーク視認の筈、こちらもスターボーにジャイブして、東北東辺りに針路を変えました。この時、岸寄りを走っていたP号は、既にマークの直前までアプローチ済み！流石、I田オーナー、稼業が固い物を扱うからでしょうか？憎いばかりの固いコース取り、抜かりが有りません。P号ぶつちぎりで第一マーク回航ですね。【後日談、結果オーライ…とご本人は謙遜？】

カナロアは、めげずに追走します。第一マーク回航は5～6番位？、マーク直前で地元【宮川】の名艇、Bアン号と接近戦、微妙な位置関係だけど、そこは厚顔のカナロア号舵引き、得意の大声で『オーバーラップ、ルーム要求』…と叫びます。奇声に驚いた地元の紳士は、あっさり内側を譲ってくれ、内側を回航、その後、ゴールま

で、このBアンに先行される事は有りませんでした！エッヘン。※でも、この船が修正で、クラス優勝でした…トホホ。

第二マーク(ゴールライン)編

折り返し地点が見える事、前日の話を思い出します…参加する四艇のイオロス同形艇に対して、急遽S根師匠が発表した、クラスマッチ…『優秀艇に特別の泡ボトルを下賜される』との事。艇の性格がレース派⇄クルーズ派と分かれるので、適切なハンデも設定されました。賜杯、もとい、ボトルを奪い取るには、拙艇はPタイム号やFレーザ一号との時間差を6分以内に納めなくては成りません。F号艇長は、既に前夜よりこの瓶を狙うと、宣言済みです。…で、カナロアはどうする？抜かり有りません、参加70艇の中で、シャンパングラスを12客積んでいるのは、間違いなく拙艇だけ！瓶は美人のT中オーナーとK藤艇長に譲り、私たちはグラスを手に整列し、その泡を注いでもらう作戦で行きましょう？

でも、出来たらやっぱり、自分で瓶もグラスも持ちたい…ならば、片道の第一マークで、三分前後が許容の遅れです。しかしながら、マーク回航前に、既にこの貯金を使い果たした感が有りますが、クルー一同、士気は落ちません。エイエイオーとスピンを取りこみ、上りの復路を頑張って走りつづけます。

上り性能は(も)素晴らしいイオロスですが、何故か先行する大型艇より、明らかに上り角度で劣るシーンが何度も発生…うーん、舵引き、後でお仕置きですね？集中！

岸側の定置網を気にしつつ、数度のタックを入れ、往路同様、先行艇の後を追走します。スタート海面⇄ゴール海面…はシーボニア沖、少し北方、ブイと本部艇が居る筈だから、直ぐに見えて来る筈…ナノに、またまたマークが見えない。この頃に成って、スタート前のサイド1氏のアドバイスが、再度頭を駆け巡る…やはり大先生の忠告は、素直に聞くべし！

ゴール方向が判らないまま、なんとなく先行艇をスターボ・クローズで追走、しばらくする内に、前方『やや風下方向』によりやくブイを発見しました。5~10度は落とせる方向⇄明らかなオーバーセイルですね、イテテ！少なく見ても2分位、無駄に走った感じですね…。マークが近づくにつれ、貯金(高さ⇄角度)を小出しにし、更に落とし気味に走ります。



そして、ついにゴールの瞬間！…ホーンがカナロア号4名の健闘を称えました？

この後に為に、重量増加を無視して積み込んだ筈の(氷と共に冷えたビール)、気温の低さと脱力感？で、帰港までお預けし、ドッキング後に、乾杯と成りました。

K太曰く、これなら、船積みせず、帰港後自販機で買った方が、艇も軽いし、もっと

冷えたビールが飲めたのでは？…『お兄さん…それを言っちゃお終いよ！』。

第三のロスト(着順は何位？)

スタート、スピンアップやジャイブ、マーク回航と、意外と大きな失敗は無かったの

ですが、やはり第一マーク、そしてゴール共に発見できず迷走した事は、着順に大きな影を落とした筈…。従って、表彰式のパーティーは、結果発表より食糧確保が、カナロア仲間・最大の関心事です。レースと違い、場所取りスタートに遅れはしたものの、その後は急迫で食料はバッチリ確保、反省会と言う名の、いつもの与太・飲み会に突入です。表彰のアナウンスが、遠くより聞こえて来ます…意外やP号が着順一位、修正二位(え～1位でないの?)、赤鱧は激戦レース艇クラスで修正三位…等など。次々と栄誉を受ける(名艇)の名を聴きながら、僕らは(酩酊)状態へ。すると、なんと、酔っ払いの耳に…カナロア号…と言う呼び出しが聞こえました!? えー、何これ、飛び賞?…そうに違いない! 艇長が、ビールコップを離さないクルーを叱咤し、皆で表彰台にダッシュで向かいます。壇上では、昨日の捜索願事件を知っているS根レース委員長が笑顔で待っています。そうか、行方不明をネタに、MIA特別賞でも貰えるのか～!と、理由は兎も角、皆で盾を頂き、壇上で記念撮影です。進水以来W)、ついに栄冠(飛の上に輝きました。パで、表彰台からの戻盾をだすと…なんと三何?飛び賞等では有のロストです。着順は漸くレース結果を真なんと、シーボニアCール部門でファーストッペン!),そして修正三位(全9艇)という、望外の結果でした。三回目のロスト、そうです自分の順位(ポジション)が、全く判って居なかったカナロア号でした。結果オーライ、メデタシ・メデタシ!



苦節二年(嘘こけ
び賞)はカナロア
チパチ!
り、頂いた箱から
位と書いてある、
りません!三度
どうだったの?…
面目を見ると…
クラス・ホワイトセ
ホームです。(エ

エピローグ…第四のロストは有ったのか?

レース翌日、海の日、心地よい疲れと共に、帰路につきます。

出航準備をしていると、S根師匠が朝のご挨拶に来訪、何時もながら諸々のノウハウ、裏話を沢山聞かせて頂きました。その後、7時半、下船するクルー二名を陸に残し、シーボニアをドックアウトしました。風は5~7m前後、帆走も考えましたが、三崎より先は、ほぼ真上りのコース、回航要員はダブルハンド、潔く機走を決めて、先ずは三崎港内を突き抜け、地元東京湾に侵入です。

湿度、気温のせい、海面は、かなりガス掛り、針路右手に有る筈の、房総半島は全く見えません。剣崎を無事かわし、北上を続けても東京電力の火力発電所の煙突も全然見えません。視界不良、第四のロストか?…ご安心下さい、復路はオートパイロット任せです。ぶれ、迷いもなく一直線に帰路進行、丁度正午過ぎにはYBMに無事帰港出来ました。

暑さが収まった夕刻から、棧橋に残した鍋、釜、机、洋酒、生活雑貨一式を、再度船積み、午後8時には、何時もの水上生活者向け船舶、カナロアに復帰です。

諸々有りましたが、本当に楽しい遠征でした。初入賞、お立ち台に立てなかった3名の仲間も、引き続き治療に勤しみ(各々…頭、首、肩に若干の問題を抱えるクルー3名)、次回は共に美酒を味わいましょう!

S根師匠、サイド1先生…本当に、お世話に成りました。

以上